

諸物転身の抄

宮本百合子

青空文庫

これまで、今時分の東京の乾物屋の店先にこんなに種々様々にあしらわれて鯿にしんが並んだことがあつただろうか。

身がきにしんの束がそこにあるわきで、小僧と娘さんとが、その身がきにしんにドロリとした黒いたれをつけて焼いている。その匂いは細雨の降る夕暮の歩道に立ちこめているが、同じ店先には鯿一尾まるのまま糠づけにしたものも売っている。

今年はどうも鯿が目につくと思つていたら、北海道の或る町から人が泊りに来て、その話ではあつちに今年は鯿がないのだそうだ。加工してどんどん内地さよこすですて、とそのお婆さんは話した。北海道のお婆さんは、市場の乾物屋から糠づけ鯿を買つて来て、器用にその頭をおとし、かずの子を別にとり出し、焼いて私にもたべさせてくれた。辛いけれども、美味しく思つた。

三陸では鯿がこれまでどつさりとれて、ぐるりの地方の農村では肥料にことかかなかつた。今年はその鯿がとれるはじから末広に姿をかえて行つた。夥しい末広鯿が、それは加工されたものだから生のまま、とれたままのものより割のよい価で、よそへ飛ぶように売り出されて行つた。三陸の鯿は静岡の茶園へ行つて、そこでもう一遍ほぐしてただの鯿に

戻されて、それから茶の根に肥料として使われたという。

この間知り人のところで病人が出来た。病人さんは子供ではないのだけれど、この頃のことだから甘えてキャラメルがほしいという注文を出した。

キャラメルが欲しいと、大きい子供まである姉さんにたのまれた妹は、これももう子供ちになっいて、キャラメル一つを、大きい注文うけた気でさがして歩いた。

と、ある店先にキャラメルが一箱あった。のしいか、かみ昆布、人造バタの妙なのなどと組合わされた一円なにがしの箱の真中に、桃色ベルトのキャラメルが一箇はさまっている。それ一つ欲しいばかりに、病人の注文であるからこそ、妹は涙をふるってまるでいらないものの入ったその箱ぐるみ一個のキャラメルを買って来た。

〔一九四一年六月〕

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集 第十七巻」新日本出版社

1981（昭和56）年3月20日初版発行

1986（昭和61）年3月20日第4刷発行

底本の親本：「宮本百合子全集 第十五巻」河出書房

1953（昭和28）年1月発行

初出：「都新聞」

1941（昭和16）年2月26日号

入力：柴田卓治

校正：磐余彦

2003年9月15日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

諸物転身の抄

宮本百合子

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>